

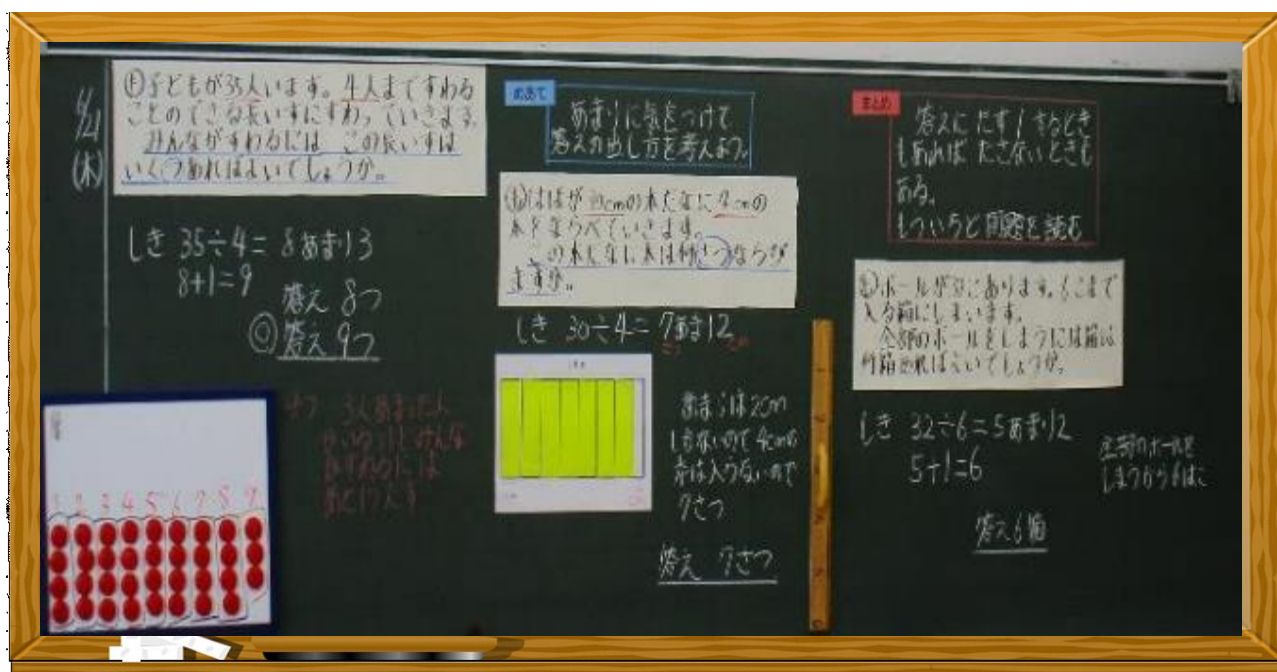
授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ



平成30年7月6日(金)
西部教育事務所

6月21日(木)に清水小学校において、あまりの処理の仕方について新たなチャレンジをしたあまりのあるわり算の授業研究会が行われました。

また、今回は入野小の授業づくり講座の授業と同じ単元でした。池本先生は、入野小の授業研究会にも積極的に参加し、その時の学びをもとに事前検討を重ね、授業を提案してくれました。



今回の授業

土佐清水市立清水小学校 3年「あまりのあるわり算」 池本教諭

日常生活の問題を解決し数学的な結果を得たときに、その結果をそのまま日常生活の問題の答えとすることが多いと思います。今回は、日常の問題場面に照らし合わせて妥当であるかどうかを判断し、得られた結果を常に振り返って吟味しようとする態度を育てていくことの大切さに気付かせようと問題提示の工夫を図った授業でした。

また、教材研究会の際に出てきた課題を改善していくために、指導案検討をベテランの先生方と何度も重ねたり、隣のクラスで事前授業を行ったりして望んだ授業研究会でした。

授業者の声

今回、授業をさせてもらったことで、子どもたちに思考させるために、どのような発問をすればいいかなど、多くのことを学ぶことができました。

教科書通りに授業を行うのではなく、単元構成を考えることの大切さについても学ぶことができました。

『得られた結果を吟味する活動』として、子どもたちに比較をさせながら、根拠を基に説明させることができるような授業を行っていきたいと思いました。



参会者の声

あまりの処理の仕方でも学習する時も既習事項を使い、アレイ図を基に根拠が言えるようにすることが“得られた結果を吟味する活動”につながるということがわかりました。

あまりの処理の仕方について、次時で学習するようになっていたので、アレイ図を活用しながら問題を比較させ、児童になぜそうなるのかという根拠をもたせられるようにしたいと思いました。

(土佐清水市外 A教諭)

参会者の声

『得られた結果を吟味する活動』を行うためには、批判的な思考をさせることが大切だということがわかりました。また、子どもの思考をいかに深めるかが大事であるということも分かったので、実践して行きたいです。

(土佐清水市外 B教諭)



齋藤先生からは、以下のような指導（一部抜粋）をしていただきました。

(1) 数学的活動としての価値

- ・日常の場面に応じて、結果が妥当かどうか判断し、結論を得るためには、根拠が必要である。今回でいえばアレイ図を活用し、子どもたち全員が説明することができていたかがポイント。しかし、本時において、子どもたち一人ひとりのノートを見てみると、アレイ図の並べ方など、やっていることがバラバラであった。クラスとしての意思統一が図れていないまま進んでいった授業展開であったので、数学的活動がぶれてしまっていた。

(2) “見方・考え方”を働かせるための手立て

- ・既習の問題（35人が4人チームをつくり、チームごとに長いすに座るといすはいくつ？）と未習の問題（35人が4人がけの長いすにすわっていくといすは何個？）の構造から、何が異なるのかといった部分に関心を持たせ、比較させることが必要である。

「7・8月の学び場」のお知らせ

7月31日(火) 大方中教材研究会(AM)
8月28日(火) 清水中教材研究会(AM)
8月29日(水) 中村中教材研究会(PM)
8月30日(木) 具同小教材研究会(PM)

7月31日(火) 入野小教材研究会(PM)
8月28日(火) 清水小教材研究会(PM)
8月30日(木) 片島中教材研究会(AM)
8月31日(金) 大方中授業研究会(PM)